



平成31年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年8月10日

上場会社名 松本油脂製薬株式会社
 コード番号 4365 URL <http://www.mtmtys.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木村 直樹
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部副本部長 (氏名) 山田 正幸
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月10日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 072-991-1001

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	8,423	7.9	1,304	1.2	2,084	39.9	1,458	38.0
30年3月期第1四半期	7,808	2.1	1,289	7.8	1,490		1,057	

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 1,459百万円 (20.0%) 30年3月期第1四半期 1,215百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	450.80	
30年3月期第1四半期	326.56	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第1四半期	60,043	50,165	83.3
30年3月期	59,850	49,677	82.7

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 50,021百万円 30年3月期 49,523百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		0.00		300.00	300.00
31年3月期					
31年3月期(予想)		0.00		300.00	300.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	16,400	4.7	2,480	5.1	2,680	11.3	1,840	1.1	568.51
通期	33,000	2.8	5,000	5.4	5,400	7.3	3,700	3.4	1,143.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期1Q	4,512,651 株	30年3月期	4,512,651 株
期末自己株式数	31年3月期1Q	1,276,340 株	30年3月期	1,276,340 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期1Q	3,236,311 株	30年3月期1Q	3,236,850 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報」(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、中国や欧州の景気減速懸念がある中、欧米の政治的混乱、米中貿易摩擦の本格化、原油価格の一段の上昇等が生じ、世界経済減速のリスクを内包しております。

わが国の経済は、GDPの伸びが前四半期のマイナスからプラスに転じる見込みで、雇用や所得面での改善は続いています。個人消費の上昇には繋がっておらず、力強い回復にはいたっておりません。

当社グループの重要な販売分野である繊維工業関連におきましては、国内では生産拠点が海外に移転し、また国内大手顧客の不採算製品の生産中止及び体力強化のための事業構造改革の影響による販売量の減少などもあり、依然として厳しい状態が続いております。一方、海外の繊維工業関連におきましては、長年に亘り生産拡大路線を続けてきた中国繊維産業の設備投資に陰りが見え始めています。また、前連結会計年度に一部地域で発生していた工場環境対策工事による操業停止や生産調整はほぼ終了いたしました。各業界内での企業淘汰の兆しが見え始めています。

非繊維工業分野におきましては、国内自動車関連では新車販売が前年同四半期比で減少し、建築関連も建築資材の生産がやや低調となっております。海外自動車関連では、米国及び中国が好調を維持し、台頭するインド市場は今後も成長が見込まれます。

このような状況下、当社グループでは高品質で価格競争力のある製品の開発を行うとともに、市場ニーズに合致した製品の早期開発に注力してまいりました。また、国内においては、顧客の生産拠点の海外移転への対応を柔軟に行い、海外においては、主力の中国市場以外での拡販にも注力いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高8,423百万円（前年同四半期比7.9%増）、営業利益1,304百万円（前年同四半期比1.2%増）、経常利益2,084百万円（前年同四半期比39.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,458百万円（前年同四半期比38.0%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 日本

日本における当第1四半期連結累計期間の外部顧客に対する売上高は8,230百万円（前年同四半期比8.2%増）、セグメント利益（営業利益）は1,297百万円（前年同四半期比1.7%増）となりました。

陰イオン界面活性剤の分野におきましては、国内繊維メーカー各社が縮小傾向の中、これまで堅調に生産を伸ばしていた不織布分野が停滞気味となっております。海外向けでは、化合繊維油剤、工業用活性剤の販売が不振となり、外部顧客に対する売上高は800百万円（前年同四半期比4.3%減）となりました。

非イオン界面活性剤の分野におきましては、国内では、アパレル業界における差別化商品の生産量アップの影響で売上が回復しましたが、産業資材分野におきましては顧客による生産調整の影響で低迷しました。非繊維工業分野では自動車ケミカル製品、トイレタリー分野が堅調で、前年同四半期を上回る販売となりました。海外向けでは産業用繊維分野、高機能繊維分野において大きく販売数量を伸ばしました。その結果、外部顧客に対する売上高は4,857百万円（前年同四半期比10.3%増）となりました。

陽・両性イオン界面活性剤の分野におきましては、国内の繊維工業関連加工剤の販売は前年同四半期並みに推移しましたが、非繊維工業分野では両性イオン界面活性剤の不採算製品を販売中止としたために販売が減少しました。しかしながら、海外向けの化合繊維油剤が好調であったため、外部顧客に対する売上高は267百万円（前年同四半期比21.1%増）となりました。

高分子・無機製品等の分野におきましては、繊維工業関連では、衣料の国内生産が低迷し、前年同四半期を下回る結果となりました。非繊維工業関連では、建築関連は全般的に低調となりましたが、自動車関連をはじめとする海外需要の取り込みにより前年同四半期を上回る販売となりました。設備投資関連資材は、好調な半導体市場の影響で前年同四半期を上回る販売となりました。その結果、外部顧客に対する売上高は2,305百万円（前年同四半期比7.4%増）となりました。

② インドネシア

インドネシアにおける当第1四半期連結累計期間の外部顧客に対する売上高は192百万円（前年同四半期比3.7%減）、セグメント利益（営業利益）は8百万円（前年同四半期比50.0%減）となりました。

非イオン界面活性剤の分野におきましては、ポリエステル糸用紡糸・加工油剤が順調に推移しましたが、中東向けが低調となり、経糸油剤やナイロン糸の紡糸油剤も低調となりました。その結果、外部顧客に対する売上高は95百万円（前年同四半期比6.3%減）となりました。

高分子・無機製品等の分野におきましては、アクリル糊剤が前連結会計年度後半以降、安定した販売を続けていますが、原材料価格の高騰分の影響により利益率が減少しております。その結果、外部顧客に対する売上高は93百万円（前年同四半期比0.9%減）となりました。

陰イオン界面活性剤及び陽・両性イオン界面活性剤の分野におきましては、販売数量、販売金額ともに大きな進展は見られませんでした。外部顧客に対する売上高はそれぞれ1百万円（前年同四半期比6.0%増）及び2百万円（前年同四半期比9.1%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末（以下「前期末」という。）比193百万円（0.3%）増加して、60,043百万円となりました。流動資産は前期末比330百万円（0.7%）増加の46,968百万円、固定資産は前期末比136百万円（1.0%）減少の13,074百万円となりました。

流動資産増加の主な要因は、商品及び製品が129百万円減少したものの、受取手形及び売掛金が205百万円、有価証券が134百万円それぞれ前期末より増加したことによるものであります。

固定資産減少の主な要因は、投資有価証券が112百万円前期末より減少したことによるものであります。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末の負債の合計は、前期末比294百万円（2.9%）減少の9,877百万円となりました。流動負債は、前期末比178百万円（2.0%）減少の8,515百万円、固定負債は前期末比116百万円（7.9%）減少の1,362百万円となりました。

流動負債減少の主な要因は、その他が359百万円増加したものの、未払法人税等が325百万円、賞与引当金が229百万円前期末よりそれぞれ減少したことによるものであります。

固定負債減少の主な要因は、繰延税金負債が183百万円増加したものの、厚生年金基金解散損失引当金が288百万円減少したことによるものであります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前期末比488百万円（1.0%）増加して50,165百万円となりました。純資産増加の主な要因は、利益剰余金が488百万円前期末より増加したことによるものであります。

この結果自己資本比率は、前期末の82.7%から83.3%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の業績予想につきましては、現時点において平成30年5月11日に公表の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	30,081	30,135
受取手形及び売掛金	8,840	9,046
有価証券	3,085	3,220
商品及び製品	2,034	1,905
仕掛品	429	441
原材料及び貯蔵品	1,159	1,134
未収還付法人税等	0	0
その他	1,008	1,086
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	46,638	46,968
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	7,098	7,126
減価償却累計額	△5,121	△5,135
建物及び構築物（純額）	1,977	1,991
機械装置及び運搬具	12,001	11,993
減価償却累計額	△10,092	△10,153
機械装置及び運搬具（純額）	1,909	1,840
土地	530	529
建設仮勘定	56	78
その他	1,443	1,422
減価償却累計額	△1,312	△1,296
その他（純額）	131	125
有形固定資産合計	4,604	4,565
無形固定資産		
その他	25	24
無形固定資産合計	25	24
投資その他の資産		
投資有価証券	7,559	7,447
その他	1,029	1,045
貸倒引当金	△7	△7
投資その他の資産合計	8,581	8,484
固定資産合計	13,211	13,074
資産合計	59,850	60,043

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,493	6,510
未払法人税等	791	466
賞与引当金	295	65
その他	1,113	1,472
流動負債合計	8,693	8,515
固定負債		
退職給付に係る負債	922	915
厚生年金基金解散損失引当金	288	-
資産除去債務	106	107
繰延税金負債	90	274
その他	71	65
固定負債合計	1,478	1,362
負債合計	10,172	9,877
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,090	6,090
資本剰余金	6,519	6,519
利益剰余金	42,747	43,235
自己株式	△7,317	△7,317
株主資本合計	48,038	48,526
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,639	1,645
為替換算調整勘定	△115	△149
退職給付に係る調整累計額	△38	△0
その他の包括利益累計額合計	1,485	1,494
非支配株主持分	153	144
純資産合計	49,677	50,165
負債純資産合計	59,850	60,043

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	7,808	8,423
売上原価	5,518	6,099
売上総利益	2,289	2,324
販売費及び一般管理費	1,000	1,019
営業利益	1,289	1,304
営業外収益		
受取利息	15	51
受取配当金	36	40
持分法による投資利益	46	-
為替差益	77	668
その他	30	28
営業外収益合計	205	789
営業外費用		
支払利息	0	0
投資事業組合運用損	-	2
支払手数料	-	1
持分法による投資損失	-	4
その他	4	0
営業外費用合計	4	9
経常利益	1,490	2,084
特別利益		
厚生年金基金解散損失引当金戻入額	-	19
特別利益合計	-	19
特別損失		
固定資産除却損	1	20
特別損失合計	1	20
税金等調整前四半期純利益	1,488	2,083
法人税、住民税及び事業税	315	441
法人税等調整額	111	180
法人税等合計	427	622
四半期純利益	1,061	1,460
非支配株主に帰属する四半期純利益	4	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,057	1,458

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	1,061	1,460
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	142	5
為替換算調整勘定	△15	△31
退職給付に係る調整額	6	0
持分法適用会社に対する持分相当額	21	23
その他の包括利益合計	154	△1
四半期包括利益	1,215	1,459
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,217	1,468
非支配株主に係る四半期包括利益	△1	△9

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	日本	インドネシア	
売上高			
外部顧客への売上高	7,608	200	7,808
セグメント間の内部売上高 又は振替高	88	11	99
計	7,696	211	7,907
セグメント利益	1,276	16	1,292

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,292
棚卸資産の調整額	△3
四半期連結損益計算書の営業利益	1,289

II 当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	日本	インドネシア	
売上高			
外部顧客への売上高	8,230	192	8,423
セグメント間の内部売上高 又は振替高	60	3	64
計	8,291	196	8,487
セグメント利益	1,297	8	1,306

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,306
棚卸資産の調整額	△1
四半期連結損益計算書の営業利益	1,304